

神田の三滝

私の住む神田地区には、「田代のヒメシャラ」と「神田の三滝」の二か所の町指定の有形文化財があります。今回は「神田の三滝」の最近の様子をご紹介します。

この三滝があるのは設楽町神田字保六。中河内の神明社横の林道を左に入り三百メートルほど進むと終点になり、そこが三滝の入り口になります。林道の入り口には案内看板も立てられています。ここからは大きな石がゴロゴロした沢を歩くか獸道のような山道を歩きます。最初に申し上げておきますが、ここは整備された歩道があるわけでもなく、歩くのに危険なところもあります。岩や石も滑りやすく、鎖場も二か所あります。また最近はヤマビルが多く見られます。

此処に入るのにはそれなりの装備が必要になり、登山でいうならば中級者以上の方でないと最奥の三の滝には行くことは出来ません。

林道の終点から百メートルほど登つていくと一の滝が見えます。



一の滝

一の滝から二の滝までは沢と山道を二百メートルほど登ります。途中倒木を跨いだり、滑りやすい岩を登る鎖場もあります。この鎖場を登りきると二の滝になります。

二の滝入口には小さな危険な場所もあります。

一の滝は一番落差の大きい滝で九・五メートル。別名「不動滝」とも言われます。滝の両側の岩にはたくさんの「イワタバコ」が見られます。



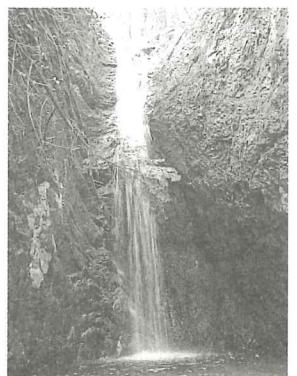
一の滝

出ます。二の滝は落差の一一番小さい滝で七・九メートル。

二の滝から最奥の三の滝まで

は五十メートルほどですが、最初に滝つばから滝の頭まで一気の登りです。急峻のためここも鎖場になっています。鎖場を過ぎて少し平坦な沢を進むと三の滝に到着します。昔、ここには牛がいたという伝説があつて「丑滝」と言われます。

三の滝入口まで見に行くのは大変かと思われますが、「来てよかつた」ときっと思っていただけのかと思ひます。是非一度見に来ていただけたら幸いです。



三の滝

この滝をつくっている岩石は岩古谷山と同じ設楽火山岩類の石英安山岩で大変硬い岩です。それでも長い年月の間に滝の後退があつて、幅は数メートルですが、奥行きは十メートルほど深い谷をつくっています。滝



(設楽町文化財保護審議会委員
宮本 典幸)